

衆議院法務委員会ニュース

平成 28.10.28 第 192 回国会第 6 号

10 月 28 日（金）、第 6 回の委員会が開かれました。

1 部落差別の解消の推進に関する法律案（二階俊博君外 7 名提出、第 190 回国会衆法第 48 号）

・提出者門博文君（自民）、宮崎政久君（自民）及び逢坂誠二君（民進）並びに政府参考人に対し、質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

神谷昇君（自民）

- ・同和地区及び同和関係者を対象とした特別対策を平成14年3月まで実施していた「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」等と本法案の関連について、提出者に伺いたい。
- ・本法案の第1条にある、「現在もなお部落差別が存在する」との文言が示す具体的な事実について、提出者に伺いたい。
- ・部落差別の禁止や罰則を定めないと、部落差別解消に実効性がないとの意見に対して、理念法とした本法案の意義を伺いたい。

藤野保史君（共産）

- ・本法案第3条で部落差別を解消するための施策が国及び地方公共団体の責務とされていることによって、かつての特別対策が復活し、民間団体が行政に介入することが懸念されているが、提出者の見解を伺いたい。
- ・本法案に部落差別の定義がないことにより、行政が部落差別の解消に資する施策かどうかを主体的に判断できないと考えるが、提出者の見解を伺いたい。
- ・本法案第6条に基づく部落差別の実態に係る調査は、差別の掘り起こしや部落差別の固定化、永久化につながるかと考えるが、提出者の見解を伺いたい。

木下智彦君（維新）

- ・部落差別については、過去の努力により、認識していない地域や世代もあるなど、認識が異なっていることを踏まえ、諸課題に対する本法案の具体的な運用について、提出者に伺いたい。